

平井 信作（ひらい・しんさく）

1、プロフィール

小説家。県内の新聞、同人誌を舞台に、常に地方人の生活の中に都会と共通の鉱脈を発掘した。「生柿吾三郎」ものの広い人気は、ユーモア一辺倒でないところにある。

<生没>

1913(大正2)年4月6日 ～ 1989(平成元)年6月5日

<代表作>

小説『生柿吾三郎の来歴』『生柿吾三郎の税金闘争』『太行山脈』

<青森との関わり>

南津軽郡浪岡村(現青森市浪岡)生まれ。

2、作家解説

大正 15 年浪岡小学校を卒業、弘前中学校に入学。昭和6年卒業後ただちに上京、築地小劇場の三期生となる。父によって村に帰されるが、戯曲「吹雪一かくして農民は起てり」を持って再び上京、劇場上演をとげる。

戦時中兵役に従い、21 年帰郷、「月刊東奥」8月号に発表した「津軽衆」が処女作。22 年「月刊東奥」に「猫眼町」以下4篇、25 年の同誌に2篇の小説を発表。

戦後、東奥日報の連載小説に登場の郷土作家、平田小六、北畠八穂、淡谷悠蔵にひき続き、26 年 12 月から平井の「生柿吾三郎の来歴」が登場、二百回以上の連載となるほど好評であった。30 年2月から青森県農業改良普及会の機関誌「青森農業」に「生柿吾三郎の来歴」が再登場し連載を続けた。37 年、弘前文学会の当番で刊行の「東北作家号」に「べご」を書き、「弘前文学」7月号に「君に勧む一杯の酒」を発表。

41 年「弘前文学」発表の意欲的な二作があり、42 年今官一主宰の「現代人」に発表の「生柿吾三郎の税金闘争」が「文学界」に転載、直木賞候補作品となる。

42年、「夏後家」「軍鶏村」「丑のべご」の諸篇を収録した『生柿吾三郎の税金闘争』が文芸春秋社から刊行された。44年『生柿吾三郎の来歴』刊行。

45年以降「弘前文学」に「最初の不忠者」の他に「生柿吾三郎もの」が数篇あり、「北の街」に「津軽艶笑譚」の連載もあった。

単行本には、46年『太行山脈』（生柿吾三郎兵隊小説集）、47年『生柿吾三郎の選挙闘争』などがある。石坂洋次郎の評、「地方人の生活」にも少し深く掘り下げれば、都会人にも地方人にも共通の生活の鉱脈がある、とは至言というべきである。

3、資料紹介

○『生柿吾三郎の来歴』

図書

1969(昭和44)年2月10日

190mm×135mm

昭和26年より「東奥日報」朝刊に連載。50回の予定が好評を博し200回以上になり、「生柿吾三郎」が平井の小説の代名詞ともなった記念すべき作品。津軽野に繰り広げられる吾三郎の生い立ちから青春時代までを、ユーモアとペースをおりまぜながら描く。